

■ 活動記録 ■

◆ 国際学術交流 ◆

関西学院大学－オランダ戦争資料研究所第3回国際共同ワークショップ  
“*Blood : Mass Violence and Racial Identity in the Twentieth Century*”

日時：2010年3月24日（水）、25日（木）、26日（金）

場所：オランダ戦争資料研究所（アムステルダム、オランダ）

◆ About Me and the Workshop

**Ralf Futselaar**（先端社会研究所専任研究員）

Dr. Ralf Futselaar was a main organizer of the NIOD/IASR Workshop *Blood: Mass Violence and Racial Identity in the Twentieth Century* that was held at the Netherlands Institute for War Documentation in Amsterdam, the Netherlands, from 23 to 26 March 2010. The workshop was a success in a number of respects. In the first place, presentations proved focused, interesting and original. Secondly, first steps were taken to secure the publication of the proceedings as a book. These first steps have now materialized in a coherent plan and production of the volume is in process. Thirdly, the workshop allowed for face-to-face discussions of the ongoing relationship between NIOD and IASR.

Futselaar played a role in these achievements in four ways. In the first place, he presented a theoretical paper on the race and racism, which will be included in the end volume. Secondly, he is co-editor of this volume. Thirdly, he chaired several sessions at the workshop. Finally, he was able to assist the management of both institutes in their conversations and to propose further plans for collaboration.

In addition to their participation in the NIOD Workshop *Blood: Mass Violence and Racial Identity in the Twentieth Century* from 23 to 26 March 2010, Dr. Teruyuki Tsuji and Dr. Ralf Futselaar remained in the Netherlands until the 31st of March on a research, networking, and fact-finding mission. During their stay, they undertook the following activities:

- On 29 March, both Futselaar and Tsuji paid a visit to the KITLV, Royal Netherlands Institute of South-east Asian and Caribbean Studies, in Leiden, for a discussion with its director Gert Oostindie on the possibilities of future collaborations with, and exchanges between, KITLV and IASR. The meeting was productive, and we expect to propose a more formal collaboration in the near future.
- From 25 to 30 March, Futselaar perused the library of the NIOD to finish his paper on household strategies to ensure nutrition in the wartime Netherlands. This paper is currently in press in the *Journal Food and History*.

## ◆ワークショップを振り返って

岩佐将志（先端社会研究所専任研究員）

先端社会研究所は、その前身である関西学院大学 21 世紀 COE プログラムが推進されていた 2006 年より、オランダ戦争資料研究所と国際共同ワークショップを会場持ち回りで開催している。その第 3 回に当たる今回のワークショップは、2010 年 3 月 24 ～ 26 日の 3 日間に渡り、オランダ戦争資料研究所内で開催された。先端社会研究所の側からは中野康人（副所長）、ラルフ・フツェラー、辻輝之、岩佐将志（各専任研究員）、川端浩平（関西学院大学社会学研究科大学院 GP プログラム助教）の計 5 名がパネリストとして参加した。またオランダ側からはオランダ戦争資料研究所の研究者やライデン大学の研究者など計 11 名による報告が行われた。

パネリストの専門分野は歴史学、文化人類学、日本研究、社会学、メディア研究など多岐にわたるものであった。またこれを反映し、さまざまな研究対象や分析手法に基づく報告が行われた。例えば戦時資料の保存とアーカイブ化、戦時中の人種観念の形成とそれが戦後社会に及ぼした影響、大衆文化に見られる人種の表象、現代の新聞における「戦争」をめぐるキーワード分析などが報告された話題である。これらを通じ、日本とオランダの両国における戦争体験の意味や語られ方の共通点や差異が議論された。また移民や「混血（mixed race）」の社会的扱いをめぐる問題など、グローバル化する現代社会が抱える今日の課題についても双方が関心を共有していることが確認された。本ワークショップは、先端社会研究所の理念の 1 つである国際的な研究ネットワークの構築という意味で非常に有意義なものとなった。今後も更なる研究交流や具体的な研究協力を通じ、その成果を社会に還元してゆきたいと考える。

## ◆オランダ王立東南アジア・カリブ地域研究所（KITLV）への訪問

辻 輝之（先端社会研究所専任研究員）

2011 年 3 月 24 ～ 26 日に開催された、NIOD との国際シンポジウム終了後、辻、フツェラー両専任研究員は、同月 31 日まで滞在を延長し、NIOD と同じく、オランダ王立アカデミー傘下の研究機関である東南アジア・カリブ地域研究所（The KITLV/Royal Netherlands Institute of Southeast Asian and Caribbean Studies）を訪問し、同研究所所長 Gert Oostindie と関係構築に向けて意見交換の機会をもった。

KITLV は、1851 年の設立以来、旧蘭領植民地とその周辺地域に関する情報収集と調査・研究を集中的に行ってきた。現在では、特にインドネシア、カリブ地域では、主にスリナムや蘭領アンティール諸島に関する文書、映像、音声データを大量に所蔵しており、世界中から研究者が訪問し、同研究所との協力の下で、調査・研究を行っている。日本の観点から注目すべきは、同研究所が NIOD とともに、日本占領時代のインドネシアに関する情報を所有している点である。その中には日本語による資料も多数含まれており、Oostindie 所長は、われわれとの意見交換の中で、日本の研究者や研究機関との協力によるプロジェクトの可能性を探求したいとの希望を表明した。なお、同研究所

が所蔵する資料を長期・短期にわたって調査したい研究者に対しては、その成果を同研究所が発行する *Journal of Indonesian Social Sciences and Humanities* や *New West Indian Guide* に寄稿することを前提条件として、宿泊など制度的支援の用意があり、先端社会研究所、KITLV 双方の目的と理念に合致する研究者がいれば、積極的に受け入れたい、との説明を受けた。